

【1月の気象】

この時期は冬型の気圧配置の後、大陸からの冷たい高気圧に覆われた状態となることが多く、気温の低い状態が続きます。このため、1月は1年で最も寒く、雪の降る日が多い時期となります。

右表は、気象庁の統計による昭和20～令和3年（1945～2021年）の1月の愛媛県内で発生した気象現象別災害回数です。大雪、降雪又は積雪、強風及び波浪による災害がほとんどで、その他には、着雪、低温、濃霧を含みます。

松山地方気象台では、大雪注意報基準を超える降雪や社会的に影響を及ぼす降雪を予想した場合、気象情報や警報・注意報を発表します。最新の情報を参考に早めの対策をお願いします。

愛媛県1月の現象別災害回数表 (統計期間：1945～2021年)	
気象現象	回数
大雪	10
降雪又は積雪	10
強風	3
強風・波浪・降雪又は積雪	2
強風・波浪	3
強風・降雪又は積雪	2
強風・大雪・低温	3
大雪・降雪又は積雪	2
その他	5
計	40

【気象用語】「解析積雪深・解析降雪量」とは

解析積雪深・解析降雪量は、積雪の深さと降雪量の実況を1時間ごとに約5km四方の細かさで推定するものです。解析積雪深・解析降雪量を利用すると、積雪計による観測が行われていない地域を含めた積雪・降雪の面的な状況が把握でき、的確な防災対応に役立ちます。気象庁ホームページでは、今後の雪（降雪短時間予報）のページからご利用になれます。

今後の雪(降雪短時間予報)はこちら

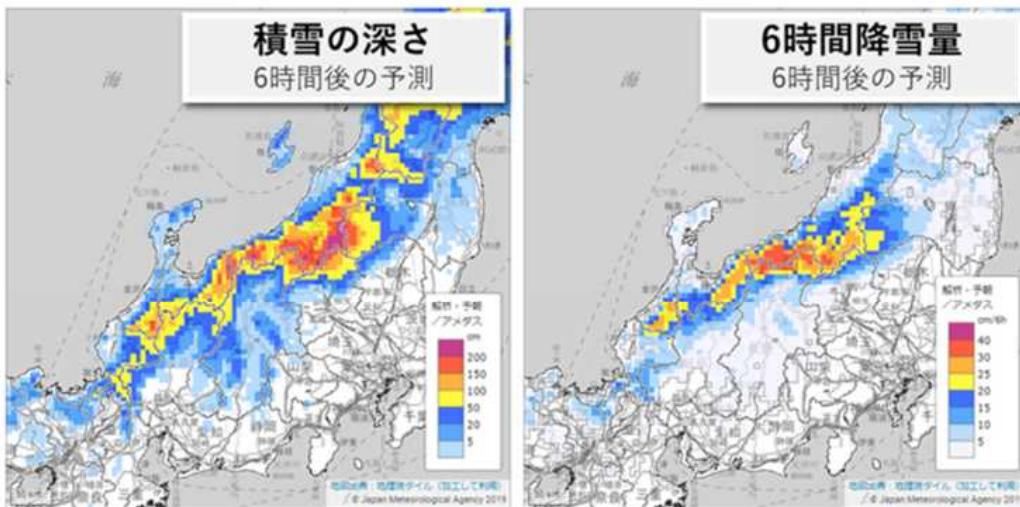
<https://www.jma.go.jp/bosai/snow/#zoom:8/lat:33.532237/lon:133.022461/colordepth:normal/elements:snowd>

また、この冬から、降雪短時間予報として、6時間先までの1時間毎の積雪の深さと降雪量を約5km四方の細かさで面的に予測したものの提供を開始しました。これは、1時間毎に発表します。解析積雪深、解析降雪量と合わせて、積雪深計による観測が行われていない地域を含めた積雪・降雪の解析・予測を面的な情報として把握でき、雪による交通への影響を前もって判断すること等に活用いただけます。

ただし、局地的な降雪の多寡は表現できないなど、利用上の留意点もあります。

詳しくは、以下のURLでご確認ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/kurashi/snow.html#fcst>



降雪短時間予報の「積雪の深さ」と「降雪量」の予測の描画例
(令和2年12月30日15時初期値。日本時間)